



VMware 環境でのコントローラのインストール

- [VMware 環境の概要 \(1 ページ\)](#)
- [インストールオプション \(2 ページ\)](#)
- [VMware ESXi 環境でのインストール \(3 ページ\)](#)
- [VM 上でのネットワーク インターフェイスの作成 \(4 ページ\)](#)
- [仮想スイッチの NIC チューニングの設定 \(5 ページ\)](#)
- [vSphere を使用した VM でのコントローラ OVA の導入に関する情報 \(6 ページ\)](#)
- [VM の基本プロパティの編集 \(8 ページ\)](#)
- [VMware ESXi 用の SR-IOV の設定 \(9 ページ\)](#)
- [ISO イメージを使用したコントローラ用の VM の作成 \(12 ページ\)](#)
- [コントローラの電源投入 \(14 ページ\)](#)

VMware 環境の概要

コントローラは、Cisco IOS-XE のオペレーティングシステムで実行されます。仮想インストールのイメージには、基盤となっている Cisco IOS-XE オペレーティング システムとワイヤレスコントローラ コードが含まれています。[Cisco.com](#) から Cisco IOS XE ソフトウェアをダウンロードし、仮想マシン (VM) 環境に直接インストールする必要があります。ただし、初期インストールプロセスの一環として、コントローラ ソフトウェアをインストールしてブートできるように、まず VM 属性をプロビジョニングする必要があります。

コントローラをインストールするために必要な高レベルのタスクを次に示します。



(注) それぞれのインストールオプションは、使用しているハイパーバイザに依存します。

OVA ファイルを使用したコントローラのインストール

1. コントローラ ソフトウェア (.ova ファイル) を [Cisco.com](#) からダウンロードします。

2. VM上にネットワーク インターフェイスを作成します。
3. VMware vSphere クライアントを使用して OVA テンプレートを導入し、コントローラ VM を作成します。
4. VMに電源を投入し、コントローラ ソフトウェアをブートします。

コントローラ VM イメージ (OVA ファイル) の取得

1. クラウドの Cisco Catalyst 9800 ワイヤレス コントローラ [製品ページ](#)を開きます。
2. [Download Software] リンクをクリックし、[Download Software] ページを開きます。
3. [Download Software] ページで、モデルを選択します。
4. 該当する Cisco IOS XE ソフトウェアをクリックします。デフォルトでは、推奨される Cisco IOS XE のリリースが選択されます。
5. 使用可能なイメージのリストで [Download Now] または [Add to Cart] をクリックします。
6. 手順に従ってソフトウェアをダウンロードしてください。

インストールオプション

現在、コントローラは次のインストールオプションのみをサポートしています。

- VM 環境での OVA テンプレートの導入。
- ISO のインストールを使用したコントローラの導入。



(注) .ova ファイルは、初回インストールにのみ使用できます。これは、Cisco IOS XE ソフトウェアバージョンのアップグレードには使用できません。

ROMMON とコントローラ

コントローラには、シスコの多くのハードウェア ベースのデバイスに含まれているような ROMMON イメージは含まれていません。最初のブートローダ プロセス中に、インストール スクリプトにより、ゴールデンイメージと呼ばれるコントローラ ソフトウェア イメージのクリーンバージョンが作成され、アクセス不可能なパーティションに配置されます。このクリーンバージョンはソフトウェア イメージが適切に機能していない場合やブートできない場合に使用できます。

VMware ESXi 環境でのインストール

この項では、VMware ツールに関する情報と、最新の Cisco IOS XE ソフトウェアを実行しているコントローラの VM の要件、およびサポート対象の VM 機能のリストを示します。

コントローラは、VMware ESXi ハイパーバイザ上で実行できます。同じハイパーバイザを使用して複数の VM を実行できます。

VMware vSphere の Web クライアントは PC 上で実行し、vCenter サーバにアクセスする Web アプリケーションです。VMware vSphere Web クライアント ソフトウェアを使用して VMware vCenter Server 上で VM を作成、設定、管理したり、コントローラを起動または停止できます。

vSphere 製品のインストールの詳細については、対応する [VMware 製品のドキュメント](#) を参照してください。



(注) Cisco IOS XE Amsterdam 17.1.1s までは、vSphere クライアントからのインターフェイスのホット削除がサポートされていません。

VMware 要件

次に、コントローラの導入に必要な VMware ツールを示します。

- VMware vSphere Web クライアント次のバージョンがサポートされています。
 - VMware vSphere Web Client 6.0
- VMware vCenter Server。
サポート対象のバージョンのリストについては、[リリースノート](#) を参照してください。
- VMware vSwitch。標準または分散型の vSwitch がサポートされています。
- ハードドライブ。単一ハードディスク ドライブのみがサポートされています。1 台の VM 上で複数のハードディスク ドライブはサポートされません。
- vCPU。次の vCPU 設定がサポートされています。
 - [Small Template] : vCPU X 4 (最小 4 GB の RAM の割り当てが必要)
 - [Medium Template] : vCPU X 6 (最小 16 GB の RAM の割り当てが必要)
 - [Large Template] : vCPU X 10 (最小 32 GB の RAM の割り当てが必要)
- 仮想 CPU コア
- 仮想ハードディスク領域 : 最小 8 GB が必要です。
- 仮想ネットワーク インターフェイス カード (vNIC) 。

サポートされている VMware 機能と操作

VMware では、仮想アプリケーションを管理したり、複製、移行、シャットダウン、復帰などの操作を実行したりするためのさまざまな機能と操作がサポートされています。

これらの操作の一部では、VM の実行時状態が保存され、再起動時に復元されます。実行時状態にトラフィック関連状態が含まれていると、実行時状態を回復または再生するときに、ユーザコンソールに追加のエラー、統計情報、またはメッセージが表示されます。設定のみに基づいて回復される保存状態の場合は、これらの機能と動作を問題なく使用できます。



注意 vMotion、スナップショット、分散リソーススケジューラ (DRS)、vNIC チーミング、SR-IOV モードなどの VMware 機能がサポートされています。ただし、スナップショットからの複製はサポートされません。

また、SR-IOV モードが有効な場合、vMotion、DRS、スナップショット、および vNIC チーミングはサポートされません。

詳細については、[Cisco Catalyst 9800-CL クラウドワイヤレス コントローラのデータ シート](#)を参照してください。

VMware の機能と動作の詳細については、対応する [VMware のドキュメント](#)を参照してください。

VM 上でのネットワーク インターフェイスの作成

VMware vSphere クライアントで次のタスクを実行してネットワーク インターフェイスを作成します。

始める前に

この手順は、コントローラの初回インストールにのみ必要です。

- ステップ 1 VMware vSphere Client にログインします。
- ステップ 2 vSphere GUI で、[Configuration] タブをクリックします。
- ステップ 3 [Networking] 領域で、[Add Networking...] をクリックします。
- ステップ 4 [Connection Type] で、デフォルトの設定をそのままにし、[Next] をクリックします。
- ステップ 5 [Network Access] で VM の名前のいずれかを選択します。
- ステップ 6 [Next] をクリックします。
- ステップ 7 [Connection Settings] で、[Network Label] フィールドに名前を入力します。
- ステップ 8 [VLAN ID (Optional)] ドロップダウン リストで [All (4095)] を選択します。
- ステップ 9 [Next] をクリックします。
- ステップ 10 [Summary] で、更新を確認し、[Finish] をクリックします。

新しく追加したネットワーク インターフェイスが [Networking] 領域で使用できるようになります。

仮想スイッチの NIC チーミングの設定

複数の物理NICを1つのチームに含めることで、仮想スイッチのネットワーク容量を増やすことができます。これは、NICチーミングと呼ばれます。仮想スイッチがチーム内の物理NIC間のネットワークトラフィックを分散させる方法を配布するには、環境のニーズと能力に応じてロードバランシングを選択します。

仮想スイッチでNICチーミングを設定するには、VMware vSphere クライアントで次のタスクを実行します。

始める前に

この手順は、NICチーミングを設定する場合にのみ必要です。



(注) VMXNET3 は、コントローラでサポートされている仮想アダプタタイプです。

ステップ 1 VMware vSphere Client にログインします。

ステップ 2 [仮想スイッチ (Virtual Switches)] に移動します。

ステップ 3 仮想スイッチのプロパティを表示するには、[編集 (Edit)] をクリックします。

ステップ 4 [仮想スイッチのプロパティ (Virtual switch properties)] ページの [NIC チーミング] タブに移動します。

ステップ 5 [ロードバランシング (Load Balancing)] ドロップダウンメニューから、仮想スイッチがチーム内の物理NIC間の発信トラフィックのロードバランシングを行う方法を指定します。

仮想スイッチでは、次のオプションを設定できます。

- 発信元仮想ポート ID に基づくルート：スイッチの仮想ポート ID に基づいてアップリンクを選択します。
- IPハッシュに基づくルート：各パケットの送信元および宛先IPアドレスのハッシュに基づいてアップリンクを選択します。
- 送信元 MAC ハッシュに基づくルート：送信元イーサネットのハッシュに基づいてアップリンクを選択します。
- 明示的なフェールオーバー順序の使用：フェールオーバー検出基準を満たすアクティブなアダプタのリストから最も高い順序のアップリンクを使用します。このオプションでは、実際のロードバランシングは実行されません。

ステップ 6 [ネットワークフェールオーバー検出 (Network Failover detection)] ドロップダウンメニューから、フェールオーバー検出の方法を指定します。

仮想スイッチでは、次のオプションを設定できます。

- リンクステータスのみ：ネットワークアダプタによって提供されるリンクステータスに依存します。このオプションは、物理スイッチの電源障害や削除されたケーブルなどの障害を検出します。
- ビーコンプロービング：チーム内のすべての NIC でビーコンプローブを送受信し、リンクステータスとともにこの詳細を使用してリンク障害を判別します。

ステップ7 スイッチにフェールオーバーを通知するには、[通知スイッチ (Notify Switches)] ドロップダウンメニューから [はい (Yes)] または [いいえ (No)] を選択します。

ステップ8 [フェールバック (Failback)] ドロップダウンメニューから、障害から回復した後に物理アダプタをアクティブステータスに戻すかどうかを選択します。

フェールバックが [はい (Yes)] に設定されている場合、アダプタはリカバリ後すぐにアクティブに戻ります。デフォルトでは、フェールバックポリシーは NIC チームで有効になっています。

フェールバックが [いいえ (No)] に設定されている場合、障害が発生したアダプタは、別のアクティブなアダプタに障害が発生し、交換が必要になるまで回復後は非アクティブのままになります。

(注) フェールオーバー順序の最初の物理 NIC で断続的な障害が発生した場合、フェールバックポリシーにより NIC が頻繁に更新される可能性があります。物理スイッチの MAC アドレスが頻繁に変更されるため、アダプタがオンラインになった直後に物理ポートがトラフィックを受け入れない可能性があります。このような遅延を最小限に抑えるために、物理スイッチで次の設定を変更できます。

- ESXi ホストに接続されている物理 NIC でスパニング ツリー プロトコル (STP) を無効にします。
- アクセス インターフェイスとトランク インターフェイスの PortFast モードまたは PortFast トランク モードをそれぞれ有効にします。これにより、物理スイッチ ポートの初期化中に約 30 秒間短縮されます。

ステップ9 設定を確認して、設定を適用します。

vSphere を使用した VM でのコントローラ OVA の導入に関する情報

提供されたコントローラ OVA ファイルパッケージを使用して、コントローラを VM に導入できます。

VMware vSphere クライアント、VMware OVF ツール、または共通の OVF ツール (COT) を使用して、OVA を導入できます。

制限事項および要件

OVA パッケージを VM に導入する場合は、次の制限事項が適用されます。

- 仮想 CPU 設定を変更した場合は、コントローラをリブートする必要があります。RAM 割り当ての変更では、コントローラをリブートする必要ありません。
- OVA を導入する場合、VM には、OVF 環境ファイル用に 1 台と .iso ファイル用に 1 台の 2 台の仮想 CD/DVD ドライブが必要です。

vSphere を使用した VM でのコントローラ OVA ファイルの導入

VMware vSphere クライアントで次のステップを実行します。

提供されたコントローラ OVA ファイルパッケージを使用して、コントローラを VM に導入できます。

VMware vSphere クライアント、VMware OVF ツール、または共通の OVF ツールを使用して、OVA を導入できます。

始める前に

- 仮想 CPU 設定を変更した場合は、コントローラをリブートする必要があります。ただし、RAM 割り当ての変更では、コントローラをリブートする必要ありません。
- OVA を導入する場合、VM には、OVF 環境ファイル用に 1 台と .iso ファイル用に 1 台の 2 台の仮想 CD/DVD ドライブが必要です。
- ネットワーク インターフェイスが正しく設定されていることを確認します。

ステップ 1 VMware vSphere Client にログインします。

ステップ 2 vSphere クライアントのメニューから、[File] > [Deploy OVF Template] を選択します。

ステップ 3 OVA ウィザードで、導入するコントローラの OVA の送信元を選択します。

[OVF Template Details] ウィンドウに OVA に関する情報が表示されます。

ステップ 4 [Next] をクリックします。

ステップ 5 [Name and Location] フィールドで、VM の名前を指定し、[Next] をクリックします。

ステップ 6 [Next] をクリックします。

ステップ 7 [Deployment Configuration] で、ドロップダウンリストから必要なプロファイルを選択します。

ステップ 8 [Disk Format] で、デフォルトの設定 ([Thick Provision Lazy Zeroed]) をそのままにし、[Next] をクリックします。

ステップ 9 [Network Mapping] ドロップダウンリストで、宛先ネットワークに 1 つ以上の仮想ネットワーク インターフェイスカード (vNIC) を割り当てます。一意のインターフェイスに各ネットワークを接続します。次のマッピングをお勧めします。

- GigabitEthernet 1 からデバイス管理インターフェイス：アウトオブバンド管理ネットワークにマッピングします。
- GigabitEthernet 2 からワイヤレス管理インターフェイス：AP とサービスに到達するネットワークにマッピングします。通常、このインターフェイスは複数の VLAN を伝送するトランクです。
- GigabitEthernet 3 から高可用性インターフェイス：SSO のピアツーピア通信用の別のネットワークにマッピングします。

ステップ 10 [Ready to Complete] で、すべての導入設定を確認します。

ステップ 11 [Finish] をクリックして OVA を展開します。

コントローラ VM が左側のパネルに表示されます。

ステップ 12 VM の電源を自動的に投入するには、[Power On] をクリックします。

VM の基本プロパティの編集

VMware vSphere クライアントで次のタスクを実行します。

ステップ 1 VMware vSphere Client にログインします。

ステップ 2 vSphere GUI で、[Configuration] タブをクリックします。

ステップ 3 [Networking] 領域で、新しく追加したネットワーク インターフェイスの [Properties] をクリックします。

ステップ 4 [Edit] をクリックしてネットワーク インターフェイスのプロパティを表示します。

ステップ 5 [Security] タブをクリックします。

ステップ 6 オンになっている VM 名をオフにします。

ステップ 7 [Promiscuous Mode] で、次のタスクを実行します。

デフォルトでは [Promiscuous Mode] は [Reject] に設定されています。

(注) 無差別モードは、vSphere ESXi の仮想スイッチまたはポートグループ レベルで定義できるセキュリティポリシーです。このモードを使用しないと、タグ付けされたトラフィックが適切にフローしません。

- チェックボックスをオンにします。
- ドロップダウンリストで [Accept] を選択し、このスイッチを通じて送受信されるトラフィックを表示します。

(注) [Forged Transmits] も [Accept] に設定されていることを確認します。

ステップ 8 [OK] をクリックした後、[Close] をクリックします。

VMware ESXi 用の SR-IOV の設定

SR-IOV で推奨されるソフトウェアバージョン

表 1: サポートされている NIC タイプの一覧

NIC	ファームウェア	ドライバのバージョン	ホスト OS
Intel x710	7.10	I40en 1.10.6 INETCLI プラグイン バージョン 1.4.1	VMware バージョン 6.5 以降

インターフェイスでの SR-IOV モードの設定

ステップ 1 ポートなしでポートグループを作成します。

ステップ 2 ダミーの仮想スイッチを作成し、**手順 1** で作成したポートグループをこのスイッチに接続します。

ステップ 3 [Host] > [Manage] > [Hardware] で、x710 PCI デバイスポートの SR-IOV を有効にします。

(注) 最大のパフォーマンスを得るために、ポートあたり 1 つの VF が作成されます。

ステップ 4 eWLC インスタンスを作成します。ネットワークアダプタを追加するときに、次の手順を実行します。

1. 作成したポートグループに [Network Adapter] を選択します。
2. SR-IOV パススルーとして [Adapter Type] を選択します。
3. SR-IOV が有効になっているポートにマッピングされるように、[Physical Function] を選択します。
4. [Guest OS MTU Change] を [Allow] に設定します。
5. [保存 (Save)] をクリックします。

信頼モードの有効化とスプーフィングチェックの無効化

GUI から ESXi への SSH を有効にするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [Host] > [Actions] > [Services] > [Enable SSH] の順に選択して移動します。

ステップ 2 [SSH] を [ESXi] に設定します。

スプーフィングチェックを無効にするには、次の手順を実行します。

コントローラのブート中に、次のコマンドを使用して信頼モードとスプーフィングチェックを設定します。

```
esxcli intnet sriovnic vf set -t on -s off -v <vf-id> -n <physical_port_name>
```

ここで、各変数は次のように定義されます。

<physical_port_name> は、VM が関連付けられている SR-IOV ポートです。

<vf-id> は、VM インスタンスに割り当てられた VF ID です。

サンプル出力：

```
[root@localhost:~] esxcli intnet sriovnic vf set -t on -s off -v 0 -n vmnic6
```

(注) VF ID がコントローラに割り当てられているかどうかを確認するには、`/var/log` にある `vmkernel.log` ファイルを確認します。

SR-IOV 永続設定の構成

上記の方法で設定された SR-IOV 設定は、リブート後は保持されません。この問題を解決するには、ホストのリブート時に自動的に有効になるサービスとして上記の設定を実行します。

ステップ 1 ファームウェアバージョン 7.0 およびドライババージョン 1.8.6 以前のバージョンのファームウェアとドライバでは、ブート時に VM のロードを停止して信頼モードの有効化とスプーフィングチェックの無効化を実行する必要があります。

ステップ 2 ファームウェアバージョン 7.10 およびドライババージョン 1.10.6 以降のバージョンのファームウェアとドライバでは、信頼モードとスプーフィングチェックの設定が永続化されていることを確認した後で、次のコマンドを入力します。

```
esxcli system module parameters set -a -p max_vfs=1,1,1,1 -m i40en
```

```
esxcli system module parameters set -m i40en -p trust_all_vfs=1,1,1,1
```

SR-IOV ドライバとファームウェアバージョンの確認

次のコマンドを使用して NIC を確認できます。

```
esxcli network nic list
```

```
[root@localhost:~] esxcli network nic list
```

Name	PCI Device	Driver	Admin Status	Link Status	Speed	Duplex	MAC Address
	MTU	Description					
vmnic6	0000:87:00.0	i40en	Up	Up	10000	Full	3c:fd:fe:ee:ce:d8
	1500	Intel Corporation Ethernet Controller X710 for 10GbE SFP+					

```
vmnic7 0000:87:00.1 i40en Up Down 0 Half 3c:fd:fe:ee:ce:d9
1500 Intel Corporation Ethernet Controller X710
```

次のコマンドを使用して、特定のインターフェイスのパラメータを表示できます。

```
esxcli network nic get -n vmnic6
```

```
[root@localhost:~] esxcli network nic get -n vmnic6
Advertised Auto Negotiation: true
```

```
Advertised Link Modes: Auto, 1000BaseSR/Full, 10000BaseSR/Full
```

```
Auto Negotiation: true
```

```
Cable Type: FIBRE
```

```
Current Message Level: 0
```

```
Driver Info:
```

```
Bus Info: 0000:87:00:0
```

```
Driver: i40en
```

```
Firmware Version: 7.10 0x80006471 1.2527.0
```

```
Version: 1.10.6
```

```
[root@localhost:~] esxcli intnet sriovnic vf get -n vmnic6
VF ID      Trusted      Spoof Check
-----
0          true         false
```

次のコマンドを使用して、プロセッサ、メモリ、vNIC、ハイパーバイザ、およびスループットプロファイルの詳細を確認できます。

```
Device # show platform software system all
```

```
Device # show platform software system all
```

```
Controller Details:
```

```
=====
```

```
VM Template: medium
Throughput Profile: high
AP Scale: 3000
Client Scale: 32000
WNCD instances: 3
```

```
Processor Details
```

```
=====
```

```
Number of Processors : 9
Processor : 1 - 9
vendor_id : GenuineIntel
cpu MHz : 2593.748
cache size : 4096 KB
Crypto Supported : Yes
model name : Intel Core Processor (Haswell, IBRS)
```

```
Memory Details
```

```
=====
```

```
Physical Memory : 16363364KB
```

```
VNIC Details
```

```
=====
```

```
Name          Mac Address      Driver Name      Status Platform MTU
```

```
GigabitEthernet1 3cfd.fede.ccbc net_i40e_vf DOWN 1522
GigabitEthernet2 3cfd.fede.ccbd net_i40e_vf DOWN 1522
```

Hypervisor Details

```
=====
```

```
Hypervisor: VMWARE
Manufacturer: VMware, Inc
Product Name: VMware Virtual Platform
Serial Number: VMware-42 06 f0 d7 62 6a fd 6d-75 0e cc 81 5d ce ac 71
UUID: 0E3546DD-DE6E-400D-9B3D-025215519CB8
image_variant :
```

Boot Details

```
=====
```

```
Boot mode: BIOS
Bootloader version: 1.1
```

Intel NIC のファームウェアに関する詳細については、以下を参照してください。

<https://downloadcenter.intel.com/product/82947/Intel-Ethernet-Controller-X710-Series>

Intel および Cisco NIC のドライバに関する詳細については、以下を参照してください。

<https://www.vmware.com/resources/compatibility/detail.php%3FdeviceCategory%3Dio%26productid%3D37996>

Cisco NIC のファームウェアに関する詳細については、以下を参照してください。

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/servers-unified-computing/ucs-c-series-rack-servers/tsd-products-support-series-home.html>

ISO イメージを使用したコントローラ用の VM の作成

次の手順で、VMware vSphere を使用したコントローラの導入方法に関する一般的なガイドラインを示します。ただし、実行する必要がある正確なステップは、VMware 環境と設定の特性に応じて異なる場合があります。

始める前に

vSphere クライアントがマシンにインストールされていることを確認します。

-
- ステップ 1 VMware vSphere Client にログインします。
 - ステップ 2 vSphere クライアントのメニューで、[File] > [New] > [Virtual Machine] を選択します。
 - ステップ 3 [Create New Virtual Machine] ウィンドウで、[Custom] を選択し、[Next] をクリックします。
 - ステップ 4 VM の名前を入力し、[Next] をクリックします。
 - ステップ 5 VM ファイルに [Datastore] を選択して、[Next] をクリックします。
 - ステップ 6 [Virtual Machine Version] を選択し、[Next] をクリックします。
 - ステップ 7 [Guest Operating System] ウィンドウで [Other] を選択し、[Version] ドロップダウンリストから [Other (64-bit)] をバージョンとして選択し、[Next] をクリックします。
 - ステップ 8 [CPU] の下で、次の設定を選択します。
 - 仮想ソケット（仮想 CPU）の数

• ソケットあたりのコア数

ソケットごとのコアの数は、選択されている仮想ソケットの数に関係なく、常に[1]に設定する必要があります。たとえば、4 vCPU 設定のコントローラは、4 つのソケットおよびソケットあたり 1 のコアで設定する必要があります。

仮想 CPU のサポート対象数と、それに対応する RAM の必要な割り当ては導入するプロファイルによって異なります。

ステップ 9 [Memory] で、プロファイルのサポート対象のメモリ サイズを設定し、[Next] をクリックします。

ステップ 10 [Network] で、導入するプロファイルに基づいて 2 つ（HA が必要な場合は 3 つ）の vNIC を割り当てます。

- a) [How many NICs do yo want to connect?] ドロップダウンリストで、接続する vNIC の数を選択します。
- b) [Network] ドロップダウン リストで、vNIC を選択します。

（vNIC ごとに異なるネットワークを選択します）

（注） 2 または 3 つのインターフェイスを追加することをお勧めします（デバイス管理に 1 つ、ワイヤレス管理に 1 つ、HA を設定する場合は HA に 1 つ）。

- c) [Adapter] ドロップダウン リストからアダプタ タイプとして [VMXNET3] を選択します。
- d) すべての vNIC を選択して電源投入時に接続します。
- e) [Next] をクリックします。

ステップ 11 [SCSI Controller] ウィンドウで、[SCSI Controller] に [VMware Paravirtual] を選択し、[Next] をクリックします。

ステップ 12 [Create a Disk] ウィンドウで、次の値を選択します。

- [Capacity] : ディスク サイズ。8 GB のディスクをお勧めします。
- [Disk Provisioning] : [Thick Provision Lazy Zeroed] または [Thick Provision Eager Zeroed] のいずれかを選択します。
- [Location] : 仮想マシンを持つストア。

ステップ 13 [Next] をクリックします。

ステップ 14 [Advanced Options] ウィンドウで、[Virtual Device Node] を選択し、[Next] をクリックします。

ステップ 15 [Finish] をクリックします。

ステップ 16 新たに作成したインスタンスに移動して右クリックし、[Edit Settings] を選択します。

ステップ 17 [Hardware] タブで、[CD/DVD Drive] をクリックします。

- a) [Datastore ISO File] オプションとして、VM のブート元の **デバイス タイプ** を選択します。データストア上の .iso ファイルの場所を参照します。コントローラ ISO ファイルが選択されていることを確認します。
- b) [Device Status] 領域で、[Connect at power on] チェックボックスをオンにします。

ステップ 18 [OK] をクリックします。

これで、VMが設定され、ブートする準備が整います。VMの電源投入時にコントローラがブートされま
す。

コントローラの電源投入

コントローラを起動するには、次のステップを実行します。

ステップ1 vSphere クライアントから仮想スイッチを選択します。

ステップ2 VM を選択し、[Power On] をクリックします。

VM が起動プロセスを開始します。VM が起動すると、コントローラはブートプロセスを開始します。
